

平成24年6月1日

「こおりやまの米」通信



郡山市
イメージキャラクター
「かくとくん」

編集：郡山市

JA 郡山市 (Tel. 921-0724)

NOSAI 郡山田村 (Tel. 933-3307)

県中農林事務所農業振興普及部 (Tel. 935-1310)

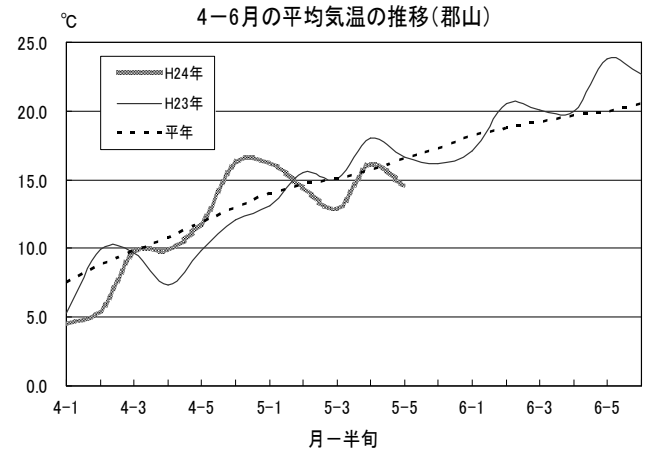
発行：郡山市農作物生産対策協議会 (郡山市営農推進課 TEL924-3761)

Vol.4 「除草・防除・中干し」次回は6月下旬

*最新号はJA各支店窓口にてそなえつけてあります。

1. 生育状況

播種盛期は4/15 (平年比-1日)、移植盛期は5/15 (平年比+1日)となり、播種、移植ともにほぼ平年並みとなりました。5月1半旬の気温は高かったものの、それ以降低く経過しました。移植後の水稻の生育は平年並みとなっています。



2. 天気予報 (東北地方)

【1か月 (5/24~6/23) 予報】(5月25日 仙台管区气象台発表)

向こう1か月の天気は前半は、天気が数日の周期で変わります。後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は平年並の確率が40%です。

【3か月予報】(5月24日 仙台管区气象台発表)

向こう3か月の出現の可能性が最も大きい天候と特徴のある気温、降水量等は以下のとおりです。

6月 平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

7月 平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

8月 東北太平洋側では、天気は数日の周期で変わる見込みです。

3. 水管理「浅水で有効茎を早期に確保しましょう」

○活着後は、浅水で水温の日較差を大きくし、有効茎を早期に確保しましょう。

○稲の直りが悪い場合は、土壌還元により根腐れで養分を吸収できない状態になっている恐れがあります。田に入ると泡が出たり臭いニオイがする時は、早急に落水し、ガスを抜きましょう。

4. 雑草防除

(1) 雑草が残ったら・・・

○残った雑草の種類によって除草剤を選択し、適期に追加防除しましょう。

ヒエだけが残った場合 クリンチャー1キロ粒剤

ヒエ4葉期まで1.0kg/10a散布、ヒエ5葉期まで1.5kg/10a散布

ヒエ以外の雑草も残った場合 ザーベックスDX1キロ粒剤 等

【注意】※高温時は葉先枯れが起きるので注意しましょう。

※揮発したガスで薬害が起きるので、きゅうり等野菜畑の近くでは使わない。

広葉雑草だけが残った場合 バサグラン粒剤 等

【注意】※バサグラン粒剤は、落水して散布して下さい。

(2) アオミドロ、表層はく離が出たら・・・

アオミドロ、珪藻類の発生量が多いと、水温上昇を妨げ、生育の抑制、分けつ阻害をもたらします。発生の多少はいろいろな要因によりますが、代かき後や田植後の施肥によって発生を助長することがあります。

アオミドロや表層はく離が発生したら、落水してアオミドロ等を田面に付着させてから再度入水するか、**モゲトン粒剤**を散布して、防除してください。

補植終了後の置き苗の処分を忘れずに！



5. 葉いもち防除「葉いもちを発生させないことが最善の穂いもち対策です。」

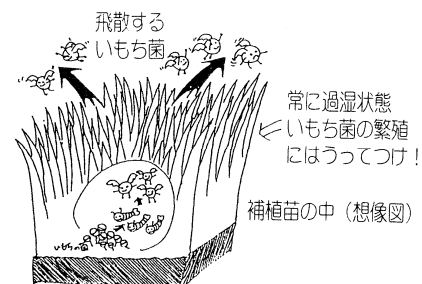
(1) 置き苗の処分

○補植用の置き苗は葉いもちの発生源になるだけで、何の役にも立ちません。

補植作業は5月末までに完了し置き苗は水田周辺に放置しないようにしましょう。

(2) 本田の粒剤防除

○箱粒剤を使わなかった田は、オリゼメート粒剤やコラトップ粒剤5などを平坦部では6月20日頃、山間高冷地では6月25日頃までに散布しましょう。散布後7日間程度は落水せず、止水としてください。



6. 害虫防除「風がある時の粉剤・乳剤等の散布に注意、周囲の野菜や果樹にかからぬように！」

箱施薬を行っていない田や、行ってもイネドロオイムシが多発した場合は、下記の殺虫剤を使用してください。

農薬名 (商品名)	総使用回数 本剤のみを使用する場合	農薬成分の系統	合ピレ規制区域
トレボン粉剤 DL・乳剤・EW	3回以内	ピレスロイド系	使えない
シクロパック粒剤	2回以内	ピレスロイド系	使える

※これらの殺虫剤の粉剤、乳剤等の散布剤は合ピレ規制区域では使えません。飛散の少ない粒剤、パック剤等は使用できます。

※トレボン、シクロパックは、水産動植物への影響が強いため、養魚池・川・湖に飛散・流入する恐れのある田では使えません。

※ミツバチなどの有用昆虫に対し長期間影響のある薬剤があるため、養蜂業者との連絡を密にし、事故のないようにしましょう。

※農薬の使用に当たっては、周辺農作物への飛散（ドリフト）に注意しましょう。

7. 中干し「有効茎を確保したら、タイミングを逃さずに。」

○1株当たり20～25本の分けつを確保したら、中干しを行い、無効茎を抑えてスッキリ型のイネを作りましょう。

○6～7月は例年雨や曇りの日が多い時期です。タイミングを逃さず中干ししましょう。

○溝切り（4～5m間隔）を併せて行い、水の掛け引きを容易におこなえるようにしましょう。

8. カリ追肥（カリウムが多いと放射性セシウムの吸収量が減少するという関係があります。）

出穂40～35日前（6月下旬～7月上旬）にカリを追肥して、茎と根を丈夫にして下さい。

けい酸カリ（出穂40日前） 20kg/10a：でき過ぎた田、コシヒカリに有効

塩化カリ（出穂35日前） 7kg/10a：一般田

PK化成（出穂35日前） 20kg/10a：一般田

この資料は、平成24年5月28日現在の農薬登録情報に基づいて作成しています。

試験研究の成果として、カリウムの施用が放射性セシウムの確実な吸収抑制効果を生み出すことが分かりましたので、放射性セシウムを含まない玄米生産に向け、カリウム施用を進めてください。

特に、稲わら搬出し、堆肥を施用しない水田については、土壌中のカリウム濃度が低いことが考えられますので、カリウム施用を行ってください。

*平成24年度福島県農薬危害防止運動展開中(6/1～8/31)